

2-2-3 熊野川の生物 (27)

126

上流直轄域における主な貴重種(植物)

| 種名 | 指定区分 |
|---------|------------------|
| ヤシャゼンマイ | 奈良県環境資源データブック記載種 |
| カワラハハコ | RDB近畿 準絶滅危惧種 |
| ユキヤナギ | RDB近畿 準絶滅危惧種 |
| ヤマハコベ | RDB近畿 絶滅危惧C種 |
| ヒメスゲ | RDB近畿 準絶滅危惧種 |



ヒメスゲ



ヤシャゼンマイ



カワラハハコ



ユキヤナギ



ヤマハコベ

上流直轄域における主な外来種

| 種名 |
|------------|
| セイトカアワダチソウ |
| アメリカセンダングサ |
| ヒメジョオン |

2-2-4 熊野川に生息する特徴的な生物種(1)

127

熊野川では、珍しいモリモトシギゾウムシとカワラバッタが生息している。

モリモトシギゾウムシ

- ・神奈川県周辺と、熊野川にのみ生息する。
- ・河道沿いのカワラハンノキにのみ生息。
- ・カワラハンノキは、増水時に水没し流水の作用を強く受ける河岸に生育する。



河岸のカワラハンノキ群落



モリモトシギゾウムシ

カワラバッタ

- ・近畿では紀の川と熊野川の2河川でしか確認されていない※。
- ・大きな丸石が存在する広い砂礫地にのみ生息する。このような砂礫地は強い流水の作用を受けることで植物が侵入できない河原である。



広い丸石河原



カワラバッタ

※河川水辺の図勢調査

2-2-4 熊野川に生息する特徴的な生物種(2)

128

- ・近畿地方整備局内の一級河川における近年(2000-2004)の水辺の国勢調査で、熊野川においてのみ確認されたのはチチブモドキ、チワラスボ、ボウスハゼ、ルリヨシノボリ、ギンガメアジ、の5種。
- ・熊野川では西、南日本の太平洋岸に分布する種を見ることができる。

チチブモドキ

- ・河口の泥底に生息する
- ・日本では千葉県より南の太平洋岸に分布。
- ・近畿では熊野川と和歌山県の2河川(2級河川)でのみ確認。

ルリヨシノボリ

- ・早瀬等流れの速い上流部に生息
- ・日本では北海道から九州に分布。
- ・近畿では熊野川と和歌山、滋賀の2河川(2級河川)でのみ確認。

ボウスハゼ

- ・中上流域、流れの強い早瀬に生息する。
- ・関東地方以西の太平洋岸に分布。
- ・近畿では熊野川と和歌山県の4河川(2級河川)でのみ確認。

ギンガメアジ

- ・暖海性の海水魚。
- ・本州中部以南の太平洋沿岸に限って分布。
- ・近畿では熊野川と和歌山県の2河川(2級河川)でのみ確認。

チワラスボ

- ・河口域や内湾の軟泥中に生息する
- ・日本では静岡県から九州にかけて分布。
- ・近畿では熊野川でのみ確認。



ボウスハゼ



チチブモドキ

写真：熊野川流域森林水産情報センターホームページ

2-2-5 魚類生息状況からみた熊野川の特徴

129

- ・近年(2000-2004)の水辺の国勢調査によると回遊魚の確認種数が、全体に占める割合が高くなっています。
- ・特にハゼ科の回遊魚が多く確認されています。

| | 熊野川・猿谷ダム | | 九頭竜川 | | 紀の川 | | 大和川 | |
|---------------------|--------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
| 流域面積km ² | 2,360 | | 2,930 | | 1,660 | | 1,070 | |
| 直轄管理延長km | 本川12.7 猿谷ダム10.9 | | 110 | | 97.9 | | 48.3 | |
| 魚類種数 | 56 | | 65 | | 69 | | 42 | |
| 内訳 | 種数 | 割合% | 種数 | 割合% | 種数 | 割合% | 種数 | 割合% |
| 淡水魚 | 23 | 41 | 26 | 40 | 32 | 46 | 27 | 64 |
| 汽水・海水魚 | 14 | 25 | 23 | 35 | 32 | 46 | 5 | 12 |
| 回遊魚 | 19 | 34 | 16 | 25 | 5 | 7 | 10 | 24 |

| | 熊野川・猿谷ダム | | 九頭竜川 | | 紀の川 | | 大和川 | |
|------|----------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 魚類種数 | 56 | | 65 | | 69 | | 42 | |
| 内訳 | 種数 | 割合% | 種数 | 割合% | 種数 | 割合% | 種数 | 割合% |
| ハゼ科 | 17 | 30 | 14 | 22 | 10 | 14 | 8 | 19 |
| サケ科 | 2 | 4 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| コイ科 | 15 | 27 | 18 | 28 | 20 | 29 | 16 | 38 |
| その他 | 22 | 39 | 32 | 49 | 39 | 57 | 17 | 40 |

河川水辺の国勢調査・現地調査結果、国土交通省データベースより

ブラックバスの発見状況

| ○:早春 (2~3月) △:春 (4~6月) □:夏 (7~9月) | st.1 | st.2 | st.3 | st.4 |
|--|-----------|----------|------------|----------------------|
| | 熊野川 河口 | 熊野 大橋 | 南檢杖・ 尾友 | 那智川 流入部 (相野谷川) |
| H18 | | | | ○ △ |
| H13 | | | | |
| H8 | | | ○ □ | |



オオクチバス(ブラックバス)の増加

生息確認情報のある
オオクチバス確認位置

- 河川
- ダム湖



相野谷川で確認(平成18年度)

問題点

外来生物法※により特定外来生物に指定され、防除対象であるオオクチバスが、近年ダム湖以外の水域でも確認されるようになり在来生物に対する悪影響が懸念されている。



今後の取り組み

オオクチバス等外来生物の生息実態調査を行い、関係機関・有識者等と対応について検討を進める。

※特定外来生物による生態系等にかかる被害の防止に関する法律 2005年6月施行

2-2-7 相野谷川の堆砂問題(1)

132

相野谷川直轄区間上流端付近で土砂の堆積が見られます。

本川合流点5.3km地点から5.7km地点



2-2-7 相野谷川の堆砂問題(2)

133



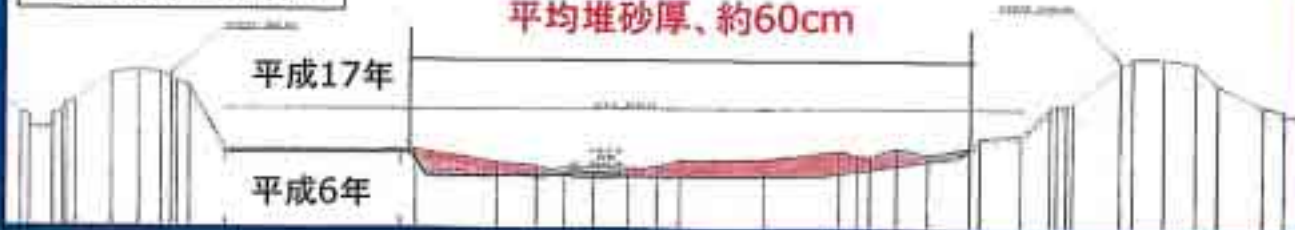
平成5年11月撮影



平成16年3月撮影

断面の経年変化

平均堆砂厚、約60cm



現状では、砂礫の堆砂により、魚巣ブロックの埋没・滞筋の固定化が進行しています。



問題点

- ・ブラックバスが繁殖
- ・汚い水質に生息する生物の増加
(ドブガイ等)
- ・水生生物の減少
- ・ツルヨシの繁茂



今後の取り組み

- ・生態系への影響調査を行う

2-3 その他の問題点と対応

水上バイク



問題点

- ・安全性
- ・排ガスによる水質汚染
- ・騒音

コンクリート構造物



問題点

- ・世界遺産の景観阻害



旧取水施設1



旧取水施設2

問題点

- ・世界遺産の景観阻害



位置図

2-3-2 河川美化等の啓発活動

138

・熊野川流域では、河川清掃や水質改善に関する啓発活動等が実施されています。



河川美化活動(河川敷周辺の清掃)



水生生物調査



街頭での啓発活動

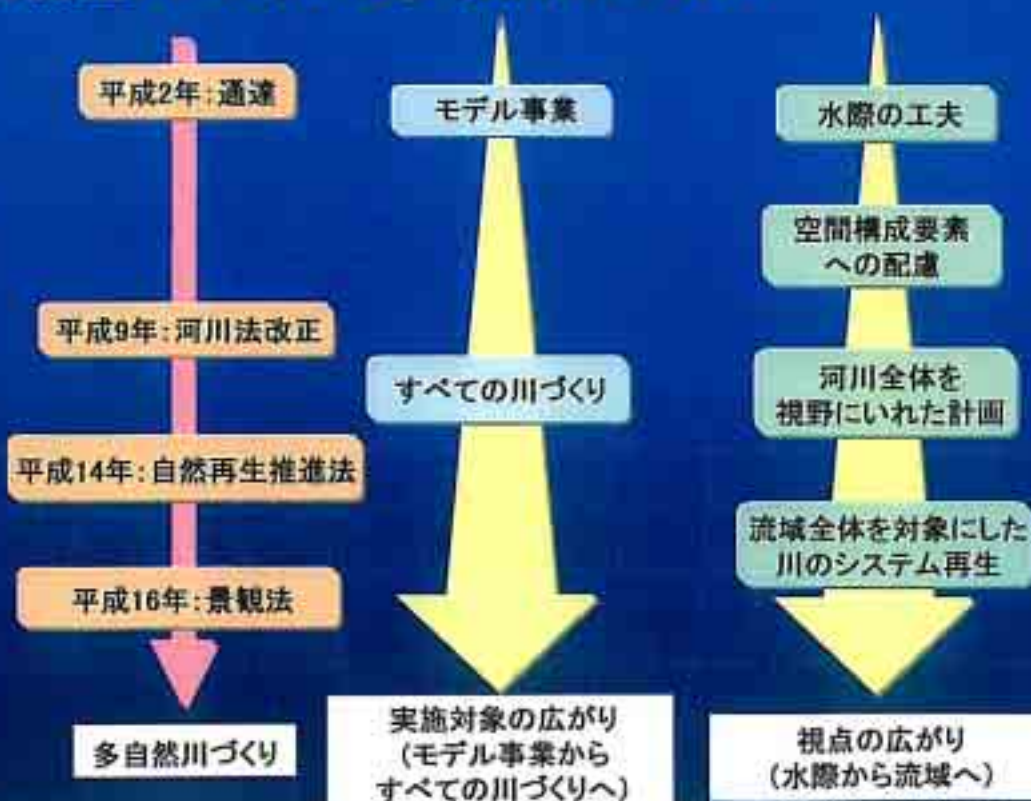


河川愛護紙芝居

2-3-3 多自然川づくりについて(1)

139

多自然型川づくりから多自然川づくりへ



熊野川における多自然型川づくりの事例(平成11年3月竣工)

川づくりの目的

- 昆虫類が生息しやすい場所とする。
- メンテナンスフリーとする。
- 治水性を重視しながら景観にも考慮する。

現在は、植生の生育、昆虫の生息が見られます。



3 熊野川の歴史・文化・地域振興

3-1 熊野川の歴史・文化

中世
10～15世紀頃

熊野詣での舟による参詣道として利用



江戸時代
17～18世紀頃

熊野川流域の材木・炭・農作物の運搬に舟運を利用
木材の筏流しによる運搬に利用
三反帆の活躍



明治時代
1800年代末

プロペラ船など新しい舟運の導入



大正時代
1900年代初頭

国道の開通、ダム建設による舟運衰退
発電事業の本格的な開始



昭和30年代
1900年代中頃

観光船や観光筏下り、キャンプなど新しい利用

現在
21世紀

3-1-2 熊野古道(1)

(1) 紀伊山地の霊場と参詣道

紀伊山地は、神話の時代から神々が鎮まる特別な地域と考えられていました。中国伝来の「仏教」も、紀伊山地の山々を「浄土」に見立て、山岳修行の舞台としました。その結果、それぞれの起源や内容を異にする「吉野・大峯」、「熊野三山」、「高野山」の三つの「山岳霊場」とそこに至る参詣道「熊野参詣道」「高野山町石道」「大峯奥駈道」が生まれました。

「紀伊山地の霊場と参詣道」



参詣道



大峰山の行者
撮影：楠本弘児

3-1-2 熊野古道(2)

145

(2) 熊野巡礼の歴史

熊野川は熊野三山への重要な参詣道でもあった。十二世紀の頃、皇族・貴族をはじめ多くの人々が熊野三山を巡拝するようになった。

人々は紀伊路を経て、中辺路を通り、熊野本宮大社に参拝し、そして熊野川を舟で下って新宮の熊野速玉大社へと向かい、新宮からは陸路で那智大社に参拝した後、また新宮から舟で遡上して帰っていった。

このように熊野川は、熊野詣での参詣道として機能していました。



資料 世界遺産 川の参詣道熊野川の魅力

現在、

- 自然崇拜に根ざした紀伊山地の神仏霊場とその参詣道が、2004年7月に「世界遺産」登録。
- 本宮から熊野速玉大社に向かう川の参詣道「熊野川」が世界遺産に登録されています。

3-1-2 熊野古道(3)

146

<熊野を訪れた主な人々(中世)>

| 世紀 | 熊野を訪れた主な人々 |
|------|--|
| 10世紀 | 宇多法皇、花山法皇 |
| 11世紀 | 白河上皇、増基法師(歌僧)、藤原為房 |
| 12世紀 | 鳥羽上皇、後白河上皇、崇徳上皇、藤原宗忠、平清盛、平重盛、平惟盛、西行法師 |
| 13世紀 | 後鳥羽院、後嵯峨上皇、龜山上皇、藤原定家、修明門院(後鳥羽院後宮)、藤原頼資、吉田経俊、一遍上人 |
| 14世紀 | |
| 15世紀 | 北野殿(足利義満側室) |



大正10年(1921) 一遍上人巡礼 熊野川舟行



大正10年(1921) 一遍上人巡礼 熊野川舟行



大正10年(1921) 一遍上人巡礼 熊野川舟行

資料 世界遺産 川の参詣道熊野川の魅力、その他

(1) 近世～近・現代

熊野川流域の良質な木材や木炭、農林産物などが、熊野川を利用して、河口の新宮へ運ばれ、江戸時代から昭和初期にかけて各地に出荷された。

熊野川の河口は、各地と交易する廻船が往来し、流域経済の中継地点であった。新宮城は、紀州藩新宮領統治の政治的、軍事的拠点であったとともに、流域の木材、炭の集積地として、重要な役割を果たしてきました。



三反帆

瀬が浅く急流の多い熊野川には、三反帆と呼ばれる帆船が往き来していたが、陸路の発達に伴い、昭和30年代には姿を消しました。

プロペラ船

大正時代から昭和30年代まではプロペラ船も活躍した。



陸運の発達・ダム建設とともに、現在舟運は観光事業に変化している。

3-1-3 舟運の歴史(2)

(2) 池田港の歴史 1

- ・伊勢路からの参詣ルートである「鵜殿の渡し」跡地
- ・熊野大橋架設後も「池田の渡し」が残る
- ・幕末には丹鶴丸(洋式軍艦)が建造
- ・明治～大正は、材木や木炭輸送の拠点として活況

中世から続く歴史的価値を持つ施設

池田港位置図



昭和初期の池田港



現在の池田港



ワークショップの取り組み

地域のニーズを反映した計画



住民参加による整備計画検討の場

○ 池田港の歴史 2



新宮町全図(編著:農林省、昭和6年発行)

丹鶴城水の手は、江戸と大阪を結ぶ水運の拠点。

3-1-4 筏流し

かつて、上流で伐採された木材は筏に組まれ、十津川と北山川を下り新宮に運ばれました。熊野川河口部は、木材、炭の集積地となり、河川交通の基地として重要な役割を果たしていました。

筏流し



たまがいと
(十津川村玉垣内)
十津川村
教育委員会提供



筏風景 (紀宝町成川)



川原町 (新宮市相筋)



①御船祭

熊野速玉大社の例祭で、宮司が神霊を神幸船に移し、齋主船、諸手船、早船とともに熊野川をのぼって行きます。合図とともに競漕が始まり、御船島の左から3周し、神輿を奉じ、祭典が行われます。この祭の歴史は古くイザナギノ尊、イザナミノ尊が乙基河原に出現したという神話を再現したものとされている。
(和歌山県無形文化財)



写真：新宮市観光協会ホームページ

3-1-6 史跡

歴史豊かな熊野川流域には多くの史跡に恵まれています。

主な史跡

- ① 大峯山
- ② 天河弁財天社
- ③ 楠正勝、佐久間信盛
- ④ 本宮大社
- ⑤ つぼ湯
- ⑥ 玉置山
- ⑦ 速玉大社
- ⑧ 神倉神社
- ⑨ 丹鶴城跡
- ⑩ 阿須賀神社



3-2 熊野川の地域振興

3-2-1 イベント(1)

新宮川流域では、多く祭りやイベントが開催され多くの人が川と親しんでいます。

- ①熊野徐福万燈祭 (新宮花火大会)
- ②相野谷川子ども夏まつり
- ③熊野川ノボリフィッシングコンテスト
- ④カヌーマラソン
- ⑤土と水と緑の学校
- ⑥清掃活動



- ③熊野川ノボリ
フィッシング
コンテスト
(熊野川～北山川)
- ②相野谷川
子ども夏まつり
- ⑤清掃活動
(河口・市田川)

①熊野徐福万燈祭(新宮花火大会)

徐福の遺徳を偲んで開催される徐福供養式典と、熊野川河原で打ち上げられる2千発もの花火大会。



写真・新宮市観光協会ホームページ

②相野谷川子ども夏まつり

紀宝町などの主催により、毎年相野谷川で開催される子供夏祭りでは、魚すくいやカヌー教室等の催しが開催され多くの人が川と親しんでいます。



写真・紀宝町・紀宝町青少年町民会議・国土交通省紀南河川国道事務所

3-2-1 イベント(3)

③熊野川ノボリフィッシングコンテスト

熊野川ノボリ(サツキマス)を育てる会主催によって熊野川、北山川で、ルアーまたはフライによる釣り大会が開催されています。



写真・熊野川ノボリフィッシングコンテストホームページ

④熊野川カヌーマラソン大会

熊野川の自然の中を旧熊野川町役場前から新宮御幸緑地までの20kmを漕ぎ下るカヌーでのマラソン大会で、地元のカヌー愛好家を中心として発足した実行委員会によって開催されます。



写真・熊野川カヌーマラソンホームページ

⑥土と水と緑の学校

新宮市などの主催により、川遊び、カヌーなどさまざまな自然体験プログラムを通して、自然体験をする機会の少ない子どもたちに環境教育を行っています。



写真:アジア協会・アジア女の会ホームページ

⑦清掃活動

熊野川河口、市田川では、河川愛護団体が河川管理者や自治体などと協力し、清掃活動を行っています。



3-2-2 観光地

新宮川流域には多くの観光地が点在しています。

主な観光地

- ① みたらい溪谷
- ② 谷瀬の吊橋
- ③ 平惟盛歴史の郷
- ④ 大台ヶ原
- ⑤ 瀨峡
- ⑥ 浮島の森
- ⑦ 徐福公園



3-2-3 観光事業(1)

159

(1) 河川を利用した観光事業

熊野川・北山川では、川舟下り、筏下り、ウォータージェット船、ダム湖ではレンタルボートなどの観光事業が行われています。

- (1)筏下り (2)ウォータージェット船 (3)ラフティング



- (4)川舟下り (5)レンタルボート



ご利用客数

ウォータージェット船：H17年の利用客は103,421人
川舟下り：H17.9.25～1年間に累計4,549人
筏下り：H17年5～9月の利用客数は9,287人

(利用客数情報は新宮市、北山村より)



筏下り写真：観光社「熊野川・南紀・伊勢」の提供より
レンタルボート写真：http://www.dream70.com/

3-2-3 観光事業(2)

160

(2) 温泉地

河川の風景を観光資源とした数多くの温泉地が存在します。

主な温泉

- ① 洞川温泉
- ② 温泉地温泉
- ③ 十津川温泉
- ④ 上湯温泉
- ⑤ 渡瀬温泉
- ⑥ 川湯温泉
- ⑦ 湯の峰温泉
- ⑧ 上北山温泉
- ⑨ おくとろ温泉



仙人風呂



3-2-3 観光事業(3)

161

(3) キャンプ場

新宮川流域には本川、支川の河畔に多くのキャンプ場があり、休日にはバーベキューなどを楽しむグループや家族連れが多く訪れます。

主なキャンプ場

- ① 天の川オートキャンプ沢谷
- ② 天川村みのずみオートキャンプ場
- ③ 坪の内オートキャンプ場
- ④ オートキャンプとちお
- ⑤ 赤谷オートキャンプ
- ⑥ アドベンチャーランド奥高野
- ⑦ 宮の向いキャンプ場
- ⑧ 谷瀬つり橋オートキャンプ場
- ⑨ 渡瀬みどりの広場キャンプ場
- ⑩ 川湯野営場木魂の里
- ⑪ 千枚田オートキャンプ場



3-2-4 その他の産業

162

熊野川流域の産業としては、豊富な森林資源を活かした林業があり、この他下流の地域では製材業、製紙業が行なわれています。

また、熊野川の豊富な水資源を活用して水力発電が流域の各地で行なわれています。

① 製紙工場



② 発電所



